

令和3年度 湖西市総合教育会議議事録

1 日 時 令和4年3月22日(火) 午後3時00分～午後4時50分

2 場 所 湖西市役所 市長公室

3 出席者

(1) 構成員

市 長 影山 剛士

教育委員会

教 育 長 渡辺 宜宏

委 員 袴田 雄司 佐原 陽子 河合 禎隆 西川 倫子

(2) 意見聴取のための関係者として出席した者

教 育 次 長(岡本 聡) 教 育 総 務 課 長(松本圭史)

学 校 教 育 課 長(鈴木 聖慈) 幼 児 教 育 課 長(豊田香織)

スポーツ・生涯学習課長(尾崎 修) 教 育 総 務 課 課 長 代 理 (木下靖義)

(3) 会議の事務のために出席した者

教 育 次 長 (岡本 聡) ※再掲

教 育 総 務 課 長 (松本 圭史) ※再掲

教 育 総 務 課 課 長 代 理 (木下 靖義) ※再掲

4 協議又は調整に係る事項

子育てにやさしいまちづくりの推進について

モノづくり人材育成について

5 協議又は調整に係る事項に関する出席者の発言

別紙のとおり

午後 3 時00分開会

(教育次長) ただいまから、令和 3 年度湖西市総合教育会議を開会する。初めに、市長から挨拶をいただきたい。

(影山市長 挨拶)

(教育次長) 次第に従い会議を進める。協議事項(1)子育てにやさしいまちづくりの推進について市長に発言をお願いする。

(市長) タウンミーティングや子育てしている親からいただいた意見の中から出来るものから始めたものである。全てが子育て支援、職住近接につながっていくもので、日々改善していかなければいけないと思っている。例えば、子ども医療費の無償化については、最初に中学生まで実施し、次は高校生と段々改善してきたわけだが、これは、日々いろいろな意見や財政事情などを踏まえて行っていかなければならない。ここにある施策はすべて学校に係ることだけでなく、妊娠期から出産期までも含めている。1 番目のワンストップ相談窓口機能の充実については先ほど説明した。2 番目のマタニティタクシーの導入については、タウンミーティングの中で妊娠期から出産期の方からいただいた意見であり、湖西市に分娩施設がなくなって10年以上が経過している。妊娠期の方の要望に答えたらということで、マタニティタクシー等の利用料の補助を令和 4 年度から創設する。運用の中で改善を図っていかれたらと思う。3 番目の子育て関連情報のプッシュ型配信については、これについても様々要望をいただいていた。DXの推進として湖西市でも住民票等のキャッシュレス化、その他にも、体育館など公共施設のオンライン予約を始めている。子育ての情報を拡充してラインで配信している。子育て情報についてもプッシュ型で情報を提供する。例えば出産の後の定期的な健診の情報を配信するとともに、オンラインでの相談ができるよう利便性を上げた。電話だと聞きにくい、ラインだと相談できるという方もいる。もちろん、対面や電話も同時並行で進めていくものであり、ツールを広げたということである。イベントも含めて知っていただくことが大事なのでさらに周知を図っていきたい。4 番目の保育料の引き下げについては、職住近接の中で気づかされたことで、豊橋市からの転居、浜松市からの転居の方もいるし、いろんな比較をされると、今までは湖西市は 2 人目は半額、3 人目は無料であったが、これは、兄弟が小学校就学前という非常に対象が狭かった。それを18歳までの兄弟がいる世帯まで引き上げた。担当課で調査したところ、全体的に豊橋市より高かった。全部を引き下げることが大事だが、若い世代に湖西市に住んでもらいたいということがある。まずは低所得者世帯、多子世帯の保育料を引き下げる。保育料の改定が 9 月からになるので 9 月から始める。5 番目の放課後児童クラブの増設については、私立保育園が 2 園増え 243 名の定員が増えた。また、幼児教育の無償化により保育園に通う子どもが増えている。今まで幼稚園に通っていた子どもが保育園に移るようになった。次に何が起こるかという、保育園の待機児

童は解消されても小学校の学童の待機児童が発生する。今一番大変なのが岡崎小学校。次いで、鷺津小学校と新居小学校となっている。順番に整備をしており、岡崎地区は現在整備をしている。鷺津地区は4月から真愛谷上放課後児童クラブが定員40名で新たに学童を始めるため大分カバーできる。新居小学校は、のびりん等で現在活動しており、今後は学校敷地内での整備を進めたい。鷺津地区については、小中学校等整備の中でやっていきたい。保育園だけではなく、その子どもたちが、小学校に入学したときに待機児童にならないように進めていく。1年ですべては解決できないが、3年計画程度で順番に着実に待機児童を解消することをやっていく。これ以外にも、給食センターも正式に始まっている。きめ細かい給食、地産地消・アレルギーの対応を進める。全部一気にできればいいのだが、他の分野もあるので、現実を見ながら進めていかなくてはならない。子育ての拡充について、このように特出ししたが、毎年毎年改善をしていかなければと思っている。

(教育次長) 続いて、教育長より補足説明する。

(教育長) 今、子育てにやさしいまちづくりの推進ということで市長から説明があったが、教育長になって5年になるが、大きく変わってきていることがある。保育料の3歳以上の無償化が令和元年10月から始まった。その前に新居幼稚園をこども園化しようと令和元年度に新居幼稚園のこども園化を進めた。この令和元年10月から、母親が子どもを預けて働きに出る家庭が増え待機児童が増え始めた。今度は、令和2年度に岡崎幼稚園のこども園化を進めた。だが、まだ足りないということで、私立保育園2園を開園した。これで令和4年度から待機児童はなくなる。だが今度は、その子どもたちが、小学校に入学するため学童の場所が不足する。今年度、岡崎小学校の敷地内に2単位の学童施設を整備、新居小学校は現在ののびりんを使用している。校舎の1教室とのびりん2単位で活動している。のびりんから学校の敷地内に移すために、岡崎小学校と同様にできるように整備を進める。それと同時にクラス数が減ってきて余裕教室があれば学校内に学童を考えていきたい。まだまだ、鷺津地区は足りないので、今後、新居をやって鷺津になってくる。子どもにやさしい街づくりということで、子どもが困らない、ほったらかしにされないように進めていく。

(教育次長) これについて委員から意見をいただきたい。最初に、袴田委員に発言をお願いします。

(袴田委員) 放課後児童クラブを増設するという話だが、女性の活躍が始まり一番関心のあるところが学童保育である。学童保育を拡充してもらうのは経営者としてはありがたい。できれば鷺津小学校にも敷地内に放課後児童クラブの施設を整備してもらえるとありがたい。直ぐにではなくても、行く行くは整備して欲しい。

(市長) 計画的に待機児童が増えない取り組みをしており、幼保無償化にも対応する準備をしていたがそれ以上に保育園の利用が増えた。そのため、さらに保育園を増やさないと待機児童があふれてしまう。学童のことも考えながら整備を進めてきたが、国の施策によりそれ以上になった。もちろん、すべてのことを一度に解決出来たら良かったが、まずは幼保を優先した取り組みをさせてもらった。理想は、学校の教室を使うことが大事だが、ただ教室も多様化していて、なかなか教室が空かないという事

情もある。なるべく学校から近いところが良いということで岡崎小の敷地内に整備を進めている。順番に岡崎地区、新居地区、鷺津地区で整備を進めていきたい。鷺津地区は今、「なるっぷ」さんや「真愛谷上」さんに敷地外で活動していただきありがたいが、先ほどあったように、どうしても移動だとか安全面もあるので将来的には中に持ってきてみたい。ただ、3校同時というのは難しいので、そこは計画的にやる。他方、湖西市の全体の学校の中で一番最初に大規模改修が必要なのが、鷺津小・中学校である。鷺津地区は幼小中が一体にあるので、幼稚園の空き教室の活用も含めて、敷地内や隣接地での整備を計画しているところである。

(教育次長) 次に、佐原委員に発言をお願いします。

(佐原委員) 出産から幼児、放課後児童クラブは小学校であるが、子育ての対象はどのくらいの年齢なのかと思った。中学校、高校生、どのくらいまでを想像しているのか。話を聞きながらこの世代を手厚くしてるというのは分かったが、もう少し小中学校に向けて何かがあってもいいのかなと思った。

(市長) 子育て支援というと乳幼児期の支援の要望が元々多い。ただ、高校生までの医療費の無償化だとか、部活動のクラブチーム化も含めて、お金に現れない支援というのは現実的にやらないといけないと思っている。子育て支援というとどちらかというと乳幼児のイメージになっている。教育支援では、エアコンやGIGAタブレット整備などで学校教育の経費は年々増えている。子育て教育予算には相当な経費をかけている。エアコンやGIGAスクール整備など大きな事業が続いたのもあるが、相当小中学校の経費を増やしている認識はある。雨漏り・外壁改修やトイレの洋式化は毎年毎年予算を付けて順次整備を進めている。

(佐原) ワンストップで育ちの応援ステーションができるのは良いと思った。

(市長) 少し子育ての話から外れるが、おくやみワンストップを先月から始めており、年金や税などの手続きを予約制で一か所で手続きをとれるようにしている。まずは、こども家庭課に来ていただいて、保健師などに相談してもらい、そこから専門的なことは、専門機関に取り次いだりする。行政サービスの変容かなと思う。

(教育次長) 次に、河合委員に発言をお願いします。

(河合委員) 放課後児童クラブについて考えていたが、適切な回答をいただき心強く思った。施設を整備するという以外に、空き教室を使うという話もいただいた。鷺津小学校は、鷺津幼稚園を活用すれば、急いで整備する必要はないかなと思った。学校内で普通教室以外の音楽室などの特別教室は放課後空いているわけなので、そういった教室を活用して、もっと自由な放課後児童クラブにしても良いし、また支援員をお願いして、自習室のような宿題をやりましょうよというような教室など柔軟な対応しても良いかなと思う。

(市長) 空き教室を有効活用するというのはそのとおりである。学童として利用できる教室は活用していく。学童保育は学校の範疇とは別で様々な形で活動しているのでその切り分けは必要だと思う。その結果、自習室を活用するのか、音楽室を活用するのか、学童保育と離れての活動は今のところ想像できないので、学童保育の運営の中でできることをやっていくことが必要である。

(河合委員) 学童保育以外での、いわゆる学校支援員等で、学校という安全で守られている中で子どもたちを勉強させたり発展させられたりすればいいと思う。小学校の部活動がなくなっているの、小学校から中学校に上がり部活動を始めると体が出来上がっていない中で体への負担が大きい。

(市長) 中学校でも部活動から浜名湖スイミングのようにクラブチームに移している。クラブチームに行く子どもはいいが、行かない子どもをどうするか。学校に支援員を置いて活動すればいいということだが、学校としてやるべきことなのか、市としてやるべきことなのか、どういう方がやるのか、責任を含めてしっかりとセーフティネットを用意してやっていった方がいいと思うとともに、多様化している中で子どものニーズに併せて支援を考えていく必要がある。

(教育長) 子どもの体力が落ちるのではないかと、放課後にいる場所がないかどの方も心配されている。スポーツ協会から、週1回、1時間～1時間半くらい、学校のグラウンドを使って運動をさせたいという話があり、令和4年度から募集し開始する。ただ、危険を伴うため保険料1回あたり500円で、放課後の部活動を助ける活動をしていく。当初大規模校3か所で開き、うまくいけば広げていきたいとのことであるが、活動の様子がどうなのか、問題はどうかを確認し進めていきたいと考えているが、また助言をいただけたらと思う。スポーツ協会でも悩みは指導員の数が足りておらず、それによって週1回の活動となっているが、その点についても助言をいただけたらと思う。

(市長) 趣味等も多様化しているのでスポーツ協会を含めた関係団体と子どもたちのニーズをしっかりと共有していき、今まで以上に連携をしていかなければならないと考えている。

(教育次長) 次に、西川委員に発言をお願いします。

(西川委員) 公立幼稚園の今後について聞きたい。公立幼稚園は人数が減っていき、こども園や保育園の人数が増えているが、市の方針として、公立幼稚園はなくす方針なのか、そうでないのであれば、例えば園児を公立幼稚園に入園する子たちを増やす支援や政策を考えているのか。もう一つ、マタニティータクシーについて聞きたい。健診のため市外の病院に妊婦さんが出かけるのに必ず補助があるのか。もしあるならば9万円の予算が妥当かどうかを確認したい。

(市長) 1点目の回答だが、公立幼稚園をなくすことはないし、その前提で進めている。民間と公立がバランスをとっていかなければならないし、そこは柔軟に対応していかなければならないので、公立をなくすことはないけれども、公立ばかりと非効率なことをしてはいけないことで、民間の保育園のニーズは上がっているし誘致するようになってきた。結果的に、幼稚園からのシフト、もしくは保育園のシフトは起こっているの、幼稚園へのニーズというのは当然減少していくと考えられるが0にはならず幼稚園へ預ける人もいる。また、民間の園では障がい者等で受入できないこともある。そういう点でも公立は必要である。今ある4つの園がすべてが必要という前提ではない。セーフティネットで幼稚園を残しておかなければならないところは残しておかなければならない。2点目だが、マタニティータクシーは、予算はあくまでも需

要調査をしたものなので、足りなければ補正する。健診とか分娩などに対して医療機関にかかるので、1回あたりの額と上限額を決めている。その範囲の中で制度を設けているので、まずは制度をやってみて金額等を適正化していく。

(教育次長) 今までの中でさらに質問はあるか。ないようであれば、協議事項(1)は終了する。

(教育次長) 続いて、協議事項(2)モノづくり人材育成について市長に発言をお願いします。

(市長) 市としての取り組みについては、先ほど予算のところでも説明したが、モノづくりの人材育成と産業のネットワークは、湖西市の今後の持続可能なまちづくりにどうしても必要なことである。モノづくりは、工業だけでなく、農林水産業など、付加価値を生むものは全てものづくりであり、あらゆる業態で行っていくべきものである。令和3年度から「モノづくり推進室」を市の中に創設し、市内小中高校での出前講座や工場見学などを企業の皆様に大変ご協力いただき実施している。今後も、モノづくり推進室と各企業・商工会と連携して進めていく。令和4年度からは、モノづくり推進室を職業訓練センターへ移転し、企業の皆様が立ち寄りやすいような形で意見交換をし、また、人材育成と産業ネットワークは情報交換や共有・発信であると考えるので、職業訓練センターを中心に、モノづくり推進室と情報交換とマッチングを行い人材育成をしていく。今後も市と企業との連携、企業間の連携、また、自分たちの企業にはこんな技術があるというものを市内外の方に知ってもらい受注をして、モノづくりを持続していただき、作るものが変わったとしても持続可能なよう課題解決や後継者の事業承継などに繋がっていくことに期待する。

(袴田委員) まず中小企業の現状であるが、半導体不足とコロナによる減産が長期に渡って続いている。中小企業については、景気対策がまず第一、その次に何が必要であるかということ、脱炭素、DXなど100年に1回の転換期となっている。そこで一番重要になってきていることは経営者の高齢化が進んでおり、子どもが少なくなっているため、人材の取り合いになっており、なかなか中小企業に入ってくれない。おまけにお子さんもその親世代の方たちも中小企業を知らない。その打開策を市と商工会と一緒に考えていくというところからスタートしている。今回の資料は湖西高校で行った企業説明会で使用した資料である。また、鷺津中学校で行った説明会の資料も入っている。

(株)袴田精機の会社紹介動画を視聴)

(袴田委員) 50周年の記念ボトルに3Dプリンターレーザー加工を事業としてやっている。こういったことを地元のうちの会社がやっていることを皆さんは知らない。新居高校の生徒さんに実際に来ていただいた時には大変好評であった。また、鷺津中学校の資料については、事前に鷺津中学校の先生と3～4時間かけて打合わせを行った。

生徒さんに湖西市内の企業を知ってもらうのも大事だが、コロナがある程度収まってから保護者の方にも説明会に参加していただいで知ってもらいたい。お子さんの就職となると保護者の意見がまず第一となるので、中小企業単体ではできないことを市や商工会、各種団体とともにチーム湖西という形で進めていかないと、これからの中小企業は立ち行かなくなるのではないかと思う。

(市長) 脱炭素、DX、電動化など、いわゆるCASEが中小企業も含めて一体的になって進めていかないといけない。一企業だけではできないことは行政として、商工会と一緒にカバーしていかなければならない。市内にはこんな企業や技術があるのだということを多くの方に理解してもらうことが必要である。

(袴田委員) 湖西市に企業がない、働くところがない、一度、東京へ行ってしまうと帰ってこない。小学校、中学校の段階からものづくりは楽しいと興味をもってもらえるといい。

(佐原委員) 資料をみて、こういう企業もあると知った。白須賀と言えばスズキは知っていても、他の企業のことは知らない。教育としては湖西市に残りたい、また戻ってこようとの思いを植え付けるような教育ができたらいいなと感じた。

(西川委員) 自分の子が高校2年生になり、今後の進路について話す機会があった。市として、こういう会社があるという体験授業をしているのか。市として授業で進めているのか。浜松市の高校に通う生徒たちに、湖西市にこういう企業があることを知ってもらっているのか。そういった紹介する資料を提供して。アプローチする機会があるのか。

(市長) すべての企業の技術を知っているわけではないが、製造業だけでなく、そういった技術を持続可能な発展のため、PR発信していかなければならない。企業リストを今回作ったが、以前から企業見学等については実施してたが各学校バラバラであったので、今回、改めて体系的にリストを作った。これを今後は先日の鷺津中だけではなくて、モノづくり推進室としては全学校に広めていこうと進めている。高校については、学校側の需要がないと難しいという側面はあるものの、湖西市民に知ってもらうだけではなくて、浜松市の高校生に知ってもらうのも有益であると考えてるので、我々としては今後もアプローチしていきたい。

(教育長) 平成29年度にアンケートをとった。80%は「湖西市に住んでも良い」と答えるが、「働きますか」というと50パーセントに下がる。理由を聞くと「湖西市では働く場所がない。」という回答である。職業体験等は中学生の時に体験はしてるものの、企業との調整に時間がかかることからサービス業に偏っていた。企業等の協力により令和元年度にリストを作成していただいたものの、コロナの影響で停滞してしまっている。コロナが収まったらリストを活用しながら子どもたちにもっと広めていきたい。

(西川委員) 受け入れる企業があるといい。

(袴田委員) きれいな職場で働きたい女性ばかりではない。その人によって対象となる企業が変わる。

(河合委員) 鷺津中の生徒の食いつきが良かったと聞いている。学校で体験ができる

よう授業のコマ数を増やさなといけない。体験するとイメージがわかりやすい。

(教育長) 授業のコマ数を増やすのは、授業数が増えた関係でなかなか難しい。総合的な学習の時間で職業体験を2～3日で実施している。あるいは農業体験等についても各学校それぞれの地域で行っている。子どもたちが、ヒト・コト・モノに触れることはすごく大事であると思う。それぞれの意味を知ることによって大きくなった時にその方たちとコミュニケーションがとれるようになる。そういった体験は小学校、中学校ではできる限り取り入れていきたいと思う。

(市長) 実際のコマ数を増やすのは市だけでは限界があるが、選択肢はだいぶ広がってきていると思うので、機会は確保していく方向でやっていきたいと思う。

(袴田委員) 湖西高校で説明の際にコロナで給食が黙食であると聞いた。せっかく動画を作成したので給食の時に動画を流してみてもと商工会経由で提案してみた。移動して会社を見学すると時間がかかってしまうので、タブレットを活用して体験学習を実施するのも一つの案だと思う。

(市長) 今回の動画は、ウィンディの湖西市公式チャンネル(ユーチューブ)で誰でも視聴することができるようになっており、また、学校のタブレット端末などの環境も整ってきたので、そういった機器をどこで使用するか学校ごとに柔軟に考えていただけるとよい。

(教育次長) 今までの中でさらに質問はあるか。ないようであれば、協議事項(2)は終了する。

以上で、令和3年度総合教育会議を閉会する。

閉 会 午後4時50分終了